

ボートレースの話題が集まるメディア向け情報誌

Propel

プロペル

I want to be a BOAT RACER!
ボートレーサーになりたい!

ますだおかだ 増田英彦さんの
ボートレーサー養成所受験体験記

夢を叶えた
レーサーたち

異色の経歴を持つボートレーサー

ボートレースアンバサダー
植木通彦が答える

ボートレースのギモン?

Vol.37 ボートレースPR情報誌



ボートレーサー
になりたい!

I want to be a BOAT RACER!

チャレンジする前に悩まない!! 私のボートレーサー養成所受験体験記

experience note

今回は「I want to be a BOAT RACER! ~ボートレーサーになりたい!」というテーマで、ボートレーサー養成所受験経験があり見事に「一発合格」。幻の70期生だった、ますだおかだの増田英彦さんにお話を伺いました。

— いつ頃からボートレーサーになりたいと思いましたか?

芸能界で、ボートレーサー養成所受験して合格した人は、なかなかいないでしょうね(笑)。

レーサーを意識したのは、このままだったら就職活動をせなアカンなあと思っていた、大学3年生の10月です。漫才師を目指す度胸もなく、普通のサラリーマンになるのも嫌やだなあと思っていた時期ですね。ヒッチハイクで日本一周旅行をして、家に帰ってきて、たまたまテレビをつけたら「レース場で待ってるぜ!」というコマーシャルがやっていました(笑)。

僕ね、漫才師になろうと思ったのはダウンタウンさんの影響なんです。ラジオとかで、浜田雅功さんがボートレーサーになりたかったというエピソードを聞いていたので、「ちょっと受験してみようかな」と思いました。それが「キッカケ」です。漫才師になろうと思ったのも、ボートレーサーになろうと思ったのも、ダウンタウンさんの影響なんです。



— 憧れのボートレーサーはいましたか?

すいません、全くの無知でした(苦笑)。「ヒゲの野中和夫さん」を知っていたぐらいですよ。ボートの大きなレースのときは、実家が阪神ファンなんで読んでいたスポーツ新聞の1面を飾っていたのは覚えています。

ボートレーサーの試験を受けると決めたときも、レースは全く見ていませんでした。テレビ中継も見えていなかったし、レース場に足を運ぶこともなかった。試験を頑張って受けただけです(笑)。

— ボートレーサー養成所受験の準備はしましたか?

ハッキリとは覚えてはいませんが、当時の体重制限は55kgでしたよね? 僕の体重は55~58kgぐらいだった



ので、食事制限とトレーニングをメチャクチャ頑張って、急いで体重を絞りました。体重のリミットに1kgぐらい余裕を持って体重を落としたので、フラフラでしたよ。家の体重計と試験会場の体重計に少しでも誤差があったら嫌なのでね。ただ、やる以上は絶対に合格したい。そのモチベーションが、お腹を空かせた僕を支えてくれました。試験後に近くの『餃子の王将』に駆け込んで、餃子を4皿ぐらい頼んで食べたんですが、胃袋が小さくなっていて全然食べられなかった(笑)。

試験には一発で合格しました。筆記試験は難しい勉強じゃなかったし、高校のときに柔道をやっていたので体力も自信があった。芸能界に入って、ボートレース関係の仕事させてもらってから「一発合格」の凄さを知ったんですよ(笑)。

— 受験会場の様子や合格後のことを教えてください

安田政彦選手、向所浩二選手、水口由紀選手のことは、関西出身なんでハッキリと覚えていますね。合格後の2月に1週間の仮研修があって。大きなマイクロバスに乗って、寒い寒い本栖(研修所)まで行きました。

仮研修では朝6時に起きて、3分以内に短パン一丁で乾布摩擦するんですよ。外は真っ暗だし、全然暖かくなならないし(苦笑)。「俺、何も悪いことしてないのに理不尽だなあ〜」と思いつつ、体を擦っていた記憶があります。明らかに健康に悪いですよ(笑)。部屋に戻って掃除して、朝ごはんでした。ご



飯が豪華で「毎日、こんなに美味しいものが食べられるんだ!」とビックリしました。

何も教えられてないのに、いきなりペアボートの前に乗せられて「運転しろ」という、適合テストみたいなこともしました。あれメチャクチャ速いですよ。僕、ジェットコースター系が苦手なんで「怖っ」ってなった。2月の本栖湖は本当に寒くてね、顔に掛かった水しぶきがすぐに凍って、眉毛とかがパリパリになる。ぬるま湯で育ってきた自分には、強

烈な経験でした。今でも鮮明に覚えています。

あと覚えているのは、腹筋しているときに1コ上(69期)の先輩が「増田ガンバレ、英彦ガンバレ」と一生懸命応援してくれていたことです。明らかに僕の方が年上なんですけどね(笑)。あの人が誰だったかが、わからないんですよ。

1週間の仮研修から戻ってきて、どうするかを考えました。受験は一生懸命頑張ったけど、ボートレース住之江で生のかかと迷いました。結局、中途半端な気持ちで1年間の訓練に耐える覚悟も自信もなかったんで、辞退しました。

「幻の同期生」でよく覚えているのは向所選手です。僕の方が年上だったし、淡路島出身でルーツが一緒なんで、僕のことを「お兄ちゃん、お兄ちゃん」と呼んでいたんですよ。

ただ、ボートレースチケットショップ姫路のイベントで一緒

に仕事をしたときに「幻の同期だったけど覚えてる?」と聞いたら、覚えていなかった(笑)。ほんの1週間の仮研修の記憶なんて、養成所の厳しさや、プロになっての大変さで飛ぶんでしょうね。

僕は1年間の訓練をビビったわけですから、訓練を耐えてレーサーになった人たちに対するリスペクト感はファン以上にありますよ。特に女子レーサーにその気持ちが強い。男子も女子も厳しいメニューは一緒だったんで。素敵な女子レーサーが増えていますしね。男なんで、そっちの方に目が行きます(笑)。

— もし、ボートレーサーになっていたらと想像したことはありますか?

もし僕がボートレーサーになっていたら、テレビに出るレーサーになっていると思います。開会式でマイクパフォーマンスをするじゃないですか?—そこに命を懸けていると思います(笑)。「M-1グランプリ」は素人も出場できるので、誰かレーサーをつかまえて出場していたかもしれないですね。

ボートレースの頂点がグランプリなら、漫才の頂点は「上方漫才大賞」と「M-1グランプリ」です。その2つを獲得したのが2002年なので、デビューして9年でグランプリのタイトルを獲得したことになるんですかね。

今はボートを岡田(圭右)に代えて、頑張ってるレースしていますよ。沈みやすいボートですが(笑)。頑張ってるモーター調整をして、一生懸命プロペラを叩いています。

— 最後にになりますが、「これからボートレーサーになりたい!」と思っている人たちに一言。

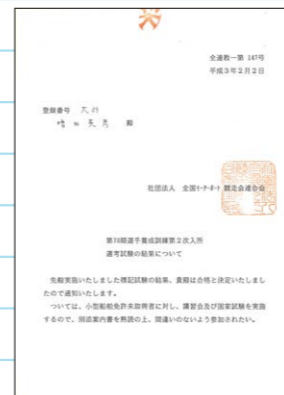
まずは「当たってから考えろ!」と言いたい。みんなチャレンジする前に悩むじゃないですか。恋愛とかもそうですよね? 受かってから決めたらいい。

僕は養成所を辞退した後、大きな広告代理店でサラリーマンを1年やり、漫才師になりました。今の自分にとって、養成所と代理店での経験は「逃げ出した以上は、違う所で結果を出さなきゃいけない」という、良い意味でのプレッシャーや発奮材料になっています。

本当に人生が決まる時、自分の一番やりたいことや、なりたいたいものが見えてくる。まず、試験を受けてみてこの貴重な経験をするのもアリだと思いますよ。



増田さんご本人の受験票



合格通知書



増田 英彦(ますだ ひでひこ 1970年2月9日生まれ) 大阪府出身。血液型はO型。所属事務所は松竹芸能。漫才コンビ「ますだおかだ」のボケ、ネタ作り担当。コンビ結成から1年足らずで数々の漫才の賞を総なめにして一躍注目された。2002年M-1グランプリの王者でもある。

異色の経歴を持つボートレーサー

(夢を叶えたレーサーたち)

新CMで田中圭が演じるキャラクター、田中くんも脱サラボートレーサーですが、“水の上では先輩も後輩もない”ボートレースの世界。中学卒業後すぐにプロになった人や、社会人経験のある人など経歴はさまざま。今回はひと味違う経歴を持つボートレーサーを紹介します。



**公認会計士
から転身**

4748 渡邊雄朗選手

**月給ではなく
自分の力で稼げる世界に憧れて**

渡邊選手は1986年5月1日生まれ、112期生として2013年にデビューしました。中学時代は野球で千葉県大会に出場、高校時代はハンドボールで千葉県大会に出場したスポーツマンです。大学は法政大学に進み、在学中に公認会計士の国家試験に合格しました。卒業後は資格を生かして会計事務所に勤めていましたが、決まった月給ではなく自分の力で稼げる世界に憧れを持ち、ボートレーサーへの転身を決めました。

養成所の試験は一発合格。ただ、訓練は想像していたよりも厳しく、月1回の外出を楽しみにしていたそうです。デビュー戦はボートレース多摩川で、デビュー第1走目にいきなり転覆、あとは6着が続く苦いデビューでした。

しかし、その後はめきめきと実力をつけ、ボートレース江戸川のフレッシュルーキー^{1*)}に選ばれるなど、東京支部の若手注目株として期待されています。

1*) 成長が期待される若手ボートレーサー(デビュー5年以内)としてボートレース場から推薦されるレーサー



**北海道新聞社
勤務から転身**

4667 土屋幸宏選手

紙面に「ボートレーサーの受験資格緩和」の記事を見つけて

土屋選手は早稲田大学の人間科学部情報学科を卒業後、すぐに北海道新聞社に入社しました。中学時代に競馬の騎手にチャレンジしたことがあり、競馬に興味を持っていました。競馬にはスポーツ新聞が必須です。そのため、卒業したら新聞社に入ろうと決めていたそうです。

北海道新聞社の整理部で、紙面のレイアウトや見出しなどをつける仕事をやっていたある日、紙面に「ボートレーサーの受験資格緩和」の記事を見つけました。受験可能年齢が“21歳未満”から“30歳未満”になったのです。すぐに退職し、トレーニングジムに通ったり、受験のための体力作りを開始。半年で体を作り、試験には一発で合格しました。

2011年のデビューから8年。インを取ったときは強気に攻めていくレーサーになりました。



**公務員
(東京都庁勤務)
から転身**

4833 吉崎悠司選手

自分の力を発揮できる世界への憧れを、捨てることができなかった

吉崎選手は、大学からそう離れていない場所にあるボートレース多摩川でレースを観ていた時にボートレーサー募集のポスターが目に入りました。「身長、体重、視力、すべての条件をクリアしている」と受験するも不合格。諦めて東京都庁の職員になりました。

公務員時代は国勢調査を担当して、「それなりに面白かった」そうです。しかし、「人生は一度しかない。自分の力を発揮できる世界への憧れを、どうしても捨てることができなかった」と、ボートレーサーの道を諦め切れず再び受験、ボートレーサーになりました。

レーサーとしての目標は「支えてくれた方への恩返し。そしてお客さんを魅了するレースをする」こと。今は高配当を出してお客さんを喜ばせていますが、目標はやはり、人気に応じて喜ばせることでしょう。A級昇級、そしてデビュー初優勝を目指し、“走る元・公務員”の奮闘は続きます。



**元航空自衛
隊員から転身**

4864 小川日紀太選手

ボートレースチケットショップで見たレース映像の迫力が忘れられずに

小川選手の出身地は宮崎で、日高逸子選手、池永太選手など強い選手がいますがボートレース場はありません。小川選手をボートレースの世界に引き込んだのも生のレースではなく、ボートレースチケットショップのレース映像でした。

高校卒業後は航空自衛隊に入隊。しかし、レース映像で見たボートレースの迫力が忘れられず、8回目の受験でようやく合格通知をゲット。116期で養成所に入所します。SGレースで活躍する原田幸哉選手など、他の自衛隊出身者と同様に「訓練は厳しいと思わなかった」そうです。

2015年にプロデビューを果たしましたが、初勝利は216走目と遅く、115期生29人中24番目でした。

勝率はデビュー期の1点台から2点台、そして3点台と、ゆっくりですが着実に上がっています。テイクオフの瞬間は近そうです。



**元水球日本代表、
養成所入所後に
闘病、再度受験
して合格**

4825 倉持莉々選手

「絶対、ボートレーサーになる」という気持ちで乗り切った厳しい訓練

倉持選手は水球の元日本代表選手です。高校時代には「男子に混じって練習できない」と女子水球部を創設、創部1年目にJOCジュニアオリンピック優勝、優秀選手賞を獲得するなど活躍しました。オリンピック出場も狙えたはずですが、「ボートレーサーになれ」という父親の言葉を受け、倉持選手はボートの道を選びます。

ところがボートレーサー養成所への入所1週間前、ホジキンリンパ腫であることを告げられ、1年の闘病生活を余儀なくされます。それが闘志に火をつけたのか、闘病生活を終えた1年後に再び受験して見事合格。厳しい訓練も「絶対、ボートレーサーになる」という気持ちで乗り切り、2014年にボートレース平和島でデビューしました。

若手の登竜門・GIヤングダービーに出場するなど、注目の女子レーサーの1人です。3月のGIIレディースオールスターへの出場も決まっており、さらなる活躍が期待されます。

I want to be a BOAT RACER!

ボートレーサーになりたい!

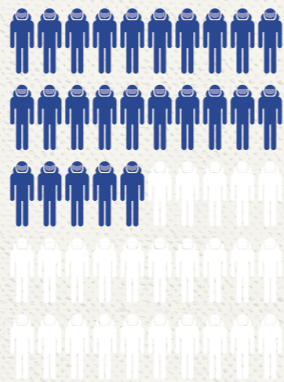
ボートレースアンバサダー 植木通彦が答える ボートレースのギモン?



Qボートレーサーになるには?

ボートレーサーになるには、福岡県柳川市にあるボートレーサー養成所で1年間の訓練を受けなければなりません。入所試験には体重や身長、視力などの制限があり、基準を満たした人だけが受験できます。体重が軽いほど有利な世界なので、減量で体を壊してしまわないように制限があるのです。アスリートを対象にしたスポーツ推薦制度もありますよ。

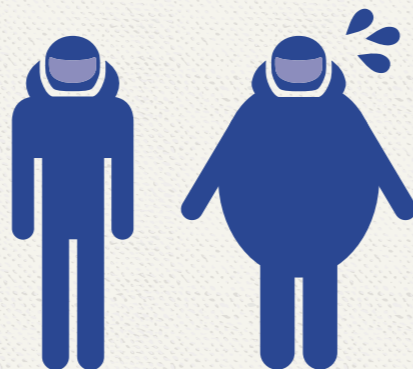
試験は年2回。1回につき約50名が合格しますが、ちょっとしたミスが命に関わるので訓練は厳しく、実際に卒業できるのは半分程度。なお養成費用は全額無償。検査員、審判員もここで養成訓練を受けます。



Qボートレーサーは太ると失格?

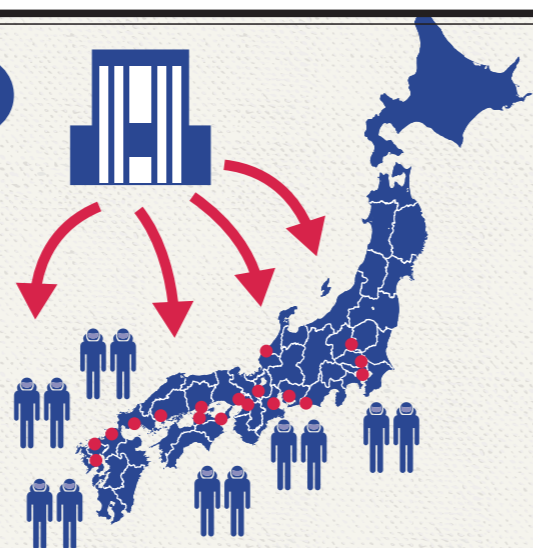
ボートレースは同一規格のモーター、ボートを使用してレースをします。体重が軽いほど、モーターへの負担が少なくなります。何ヶ月もコーヒーだけで減量するなど過酷な時代もありましたが、現在は男子51kg以上、女子47kg以上と最低体重を決めています。体重の上限はありませんが、重いほどモーターに負担が掛かります。水の抵抗も増えるので、良いことはありません。最高峰SGレースのグランプリに出る選手はほぼ、51kg前後です。

ただ、レーサーには筋力も必要なので、食事のコントロールプラス体幹トレーニングなど、筋力を鍛えているレーサーも少なくありません。



Q出場レーサーはどうやって決まるの?

出走予定は「日本モーターボート競走会」のあっせん課が決めています。決め方はグレードによって違います。SGやプレミアムGI、一部のGIIには選出基準があります。GI・GIIはレース場の希望も取り入れながら決めています。日程の重なるレースで欲しいレーサーが被ればドラフト会議です。一般競走は、あっせんの不公平がないように全国交流を原則に決めています。全員B級とか、スタートの早い人などの企画レースについては、企画意図に沿ったあっせんをします。決定後に各レーサーへ通知され、レーサーが出場を承諾すれば確定となります。



レーサーは自分のボートを持ってるの?

純正部品の点火プラグを除き、ボート、モーターは各レース場の主催者や施設会社が所有しています。

誰がどのモーター、ボートを使うかは、1開催ごとにガラポン抽選で決めます。全レーサーに公平に勝つチャンスを与えるためのルールですが、使い続けるうちにどうしても性能差は出てしまいますから、使用期間を1年(プロペラは2年)と定めています。

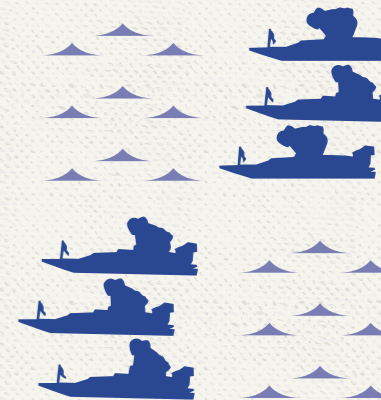
手にしたモーターは、自分で整備することができます。性能アップのために、整備士さんと相談して部品交換をするレーサーもいます。



なぜ、すぐにスタートしないの?

水の上は流れがあるでしょう? 風も吹きます。錨もなしにボートを静止させられないので、1秒以内にスタートラインを通過すればOKというフライングスタート方式を採用しています。ピットアウトからスタートまでの駆け引き、待機行動もボートレースの面白さの一つ。どのコースに入るか、助走距離はどれだけかなど、レーサーはいろいろと考えながら動きます。

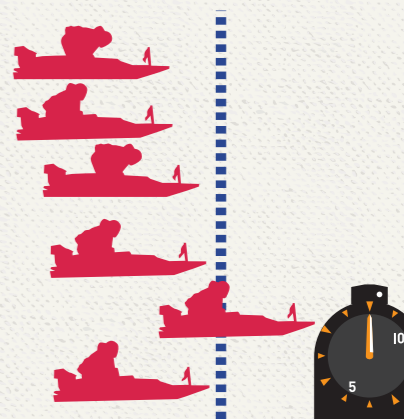
実はボートレースが始まった頃、6艇を一齐に水面に下ろして、すぐにスタートさせてみたそうです。しかし、モーター性能差がそのまま着順に直結してしまったので、すぐに廃止されました。



Qフライングって何?

大時計が0秒を指すよりも前にスタートラインを通過すると、フライング(F)になります。判定は大時計と連動した電子スリットで行います。フライングすると欠場となり、欠場艇が絡む舟券は全額返還です。

フライングをしたレーサーには出場辞退、罰金などのペナルティーが課せられます。欠場期間は級別審査期間(6ヵ月)を単位として1本目が30日、2本目は60日、3本目は90日です。SGやGIなどの優勝戦など返還額の大きいレースでフライングをすると、上位レースに一定期間出場できなくなるなど、さらにペナルティーが追加されます。



植木通彦プロフィール

現役時代は最高峰のレースであるSG(スペシャル・グレード)で5年連続の優勝を飾るなど、圧倒的な強さで「艇王」と称されたトップレーサー。デビューして3年目の1989年1月に、ボートレース桐生で事故に見舞われたが、半年後に、同じ桐生でレースに復帰した。負傷した水面を復帰の舞台に選んだのは、自分自身を奮い立たせるためだったという経緯から「平成の不死鳥」とも呼ばれた。その後は数々の記録と名勝負を残し、約20年間の現役時代の獲得賞金総額は22億6000万円を超え、2007年に39歳の若さで惜しまれつつ引退。

引退後は、ボートレーサー養成所(旧やまと学校)の校長を務め、今年からはボートレースアンバサダーとして、ファンとの交流など、活躍の場を広げ、ボートレースの普及に尽力している。

植木通彦
オフィシャル
ブログ



ボートレーサー養成所

〒839-0263 福岡県柳川市大和町大坪54-1

福岡県柳川市にある、日本唯一のボートレーサー養成所です。2面の訓練水面を持ち、養成員は全寮制で1年間の養成訓練を受けます。整備棟、研修施設、グラウンドなどがあり、養成員が体力作りをするためのトレーニング設備なども充実しています。養成訓練にかかる費用、食事代などはすべて無償です。

ボートレーサー養成所 検索 🔍



PICK UP BOAT RACER

注目の選手



4987 島倉 都 (群馬支部)

新潟県から初めて女子のボートレーサーが誕生しました。地元の新聞でも大きく取り上げられたほどです。スポーツ経験は2015年の新潟県高等学校総合体育大会カヌー競技会・女子カヤックシングル1位、女子カヤックペア1位、2015年・2016年の国体出場などの経歴があります。レーサーとしてもスタートが速く、上位着につくことも増え、実力をつけてきています。

日本財団の紹介



日本財団に関する情報はこちらから ▶ <http://www.nippon-foundation.or.jp/>
日本財団会長 笹川陽平ブログ ▶ <http://blog.canpan.info/sasakawa/>

民の立場から公への貢献をモットーに内外の現場で公益活動を実践。
年の三分之一を海外活動に充て、
海外情報や時事問題など多角的視点から情報を発信しています。

日本財団会長の
笹川陽平ブログ



取材の申し込み・お問い合わせはこちらまで



広報部 広報宣伝課

〒108-0073
東京都港区三田3-12-12 笹川記念会館

TEL 03-3451-0501 FAX 03-3451-0429

BOAT RACE 振興会ウェブサイト
▶ <http://www.boatrace-pr.jp/>
BOAT RACE オフィシャルweb
▶ <http://www.boatrace.jp/>

BOAT RACE
振興会ウェブサイト



「ISO/IEC27001:2005」を
認証取得

BOAT RACE 振興会は、2010年7月25日付で、
全部門を対象とした情報セキュリティマネジメント
システム (ISMS) の国際認証基準
「ISO/IEC27001:2005」を認証取得しました。